

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 5 区分

【発行日】令和 1 年 6 月 27 日 (2019.6.27)

【公開番号】特開 2018-52171 (P2018-52171A)

【公開日】平成 30 年 4 月 5 日 (2018.4.5)

【年通号数】公開・登録公報 2018-013

【出願番号】特願 2016-187396 (P2016-187396)

【国際特許分類】

B 6 2 J 17/00 (2006.01)

B 6 2 J 99/00 (2009.01)

B 6 2 J 23/00 (2006.01)

【F I】

B 6 2 J 17/00 A

B 6 2 J 99/00 L

B 6 2 J 23/00 C

【手続補正書】

【提出日】令和 1 年 5 月 22 日 (2019.5.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 3】

左右のインナカウル部 2 4 , 2 4 は、左右のサイドカウル 2 8 , 2 8 の前部の内側にそれぞれ連結されている。各サイドカウル 2 8 の前縁の一部が、側面視で、インナカウル部 2 4 の前縁に沿って上下方向に延び、且つ、下方に向かって後方に延びている。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 9】

フロントカウル 2 0 のランプカウル部 2 2 におけるサイドカウル 2 8 で覆われる部分に、車幅方向を向いたピン挿通孔 3 6 が形成されている。ピン挿通孔 3 6 は、ランプカウル部 2 2 の下部の側面に、前後方向に並んで 3 つ形成されている。ただし、ピン挿通孔 3 6 の数はこれに限定されない。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 1】

カウル支持部 7 6 は、第 2 連結パイプ 8 0 の上端部の車幅方向中央部に接合されている。カウル支持部 7 6 は、図 9 に示すように、第 2 連結パイプ 8 0 の上端から前方斜め上方に突出したカウル取付部 8 8 を有している。カウル取付部 8 8 は、板金からなり、前方斜め上方を向く取付面を有している。図 7 に示すように、カウル取付部 8 8 は、車幅方向中心線 C を挟んで左右一対設けられており、各カウル取付部 8 8 にねじ孔 8 8 a が、上下方向に並んで 2 つ設けられている。本実施形態では、ねじ孔 8 8 a は溶接ナットで構成され

ている。

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００６１

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００６１】

上記実施形態のフロントカウル２０では、ウィンドシールド３２が取り付けられるシールド取付部３４も型成形により一体に形成されており、シールド取付部３４とウィンドシールド３２がカウルステー７０のカウル支持部７６に、ボルト１００により共締めされている。これにより、フロントカウル２０およびウィンドシールド３２が、ボルト１００を用いてカウルステー７０に強固に連結されるとともに、ボルトの数が減少し、取付工程も少なくて済む。

【手続補正５】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００６４

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００６４】

図８に示すように、フロントカウル２０のランプ開口２６が閉じた開口で形成され、ランプカウル部２２におけるランプ開口２６の周縁部がカウルカバー３０で覆われている。これにより、カウルカバー３０の形状によらず、フロントカウル２０を設定できる。具体的には、フロントカウル２０のランプ開口２６周辺を閉曲線で設定しても、カウルカバー３０を開いた開口縁で形成できる。したがって、フロントカウル２０の形状によらず、カウルカバー３０に意匠性を設定できるので、意匠の自由度が向上する。